

— 環境活動レポート —



(平成 28 年 5 月 1 日 ~ 平成 29 年 4 月 30 日)



平成 2 9 年 5 月 1 日



— 総合建設コンサルタント —

新日本設計 株式会社



ISO9001



エコアクション21[®]
認証番号 0003743

＝ 会社概要 ＝

商号	新日本設計株式会社					
代表者	代表取締役 野田 泰秀					
本社	〒410-0001 静岡県沼津市足高 547-2 環境管理責任者及び担当者 業務管理部長 子上 住夫 TEL (055) 924-2801 FAX (055) 924-2803 Email : shin-nihon@snsk.jp http://www.akaruimirai.co.jp					
支店・営業所	東京支店 〒104-0033 東京都中央区新川2丁目30番11号 新川OMKビル4F TEL (03)3523-6788 FAX (03)3523-6789 三島支店 〒411-0816 静岡県三島市梅名391-1 210号 TEL (055)946-5910 FAX (055)946-5911 静岡支店 〒422-8041 静岡県静岡市駿河区中田2丁目 6-6 102号 TEL (054)269-6277 FAX (054)269-6278 富士営業所 〒417-0061 静岡県富士市伝法3098-9 3階B TEL (0545)67-1230 FAX (0545)67-1255 富士宮営業所 〒418-0013 静岡県富士宮市大岩 349-3 TEL (0544)26-0580 FAX (0544)66-8580 浜松営業所 〒432-8038 静岡県浜松市中区西伊場町56 103号 TEL (053)522-9570 FAX (053)522-9571					
登録	測量業登録 第(6)-18473号 建設コンサルタント登録 建26第8211号 補償コンサルタント登録 補26第4752号 一級建築事務所登録 県知事(2)第7109号 品質マネジメントシステム登録 Q2857 適用規格 JIS Q 9001:2015 / ISO 9001:2015					
事業活動	建設コンサルタント(土木設計・施工管理業務等)、測量(調査・測量等)、 地質調査、補償コンサルタント(用地調査・事業損失等)					
設立	昭和59年5月2日					
資本金	4,000万円					
対象範囲	新日本設計株式会社全組織、全活動を対象にする					
年商	5億7千9百万円(平成28年度実績)					
総人数	75名					

＝ 事業の規模 ＝

活動の規模	単位	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
売上高	百万円	497	552	473	517	579
従業員	人	78.08	78.83	74.1	75.9	74.3
床面積	m ²	833	833	833	833	833
社有車台数	台	38	38	35.67	35.25	34

新日本設計株式会社環境方針

環境理念

《心地よい環境、住みよい街づくりをめざして》

新日本設計株式会社は地球環境が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に取り組んでまいります。

そして、全社員が環境問題に積極的に取り組み、この取り組みを継続的に改善していくこと、また、事業活動をととして省資源・省エネルギーに努め、持続可能な循環型社会の構築に貢献してまいります。

環境方針

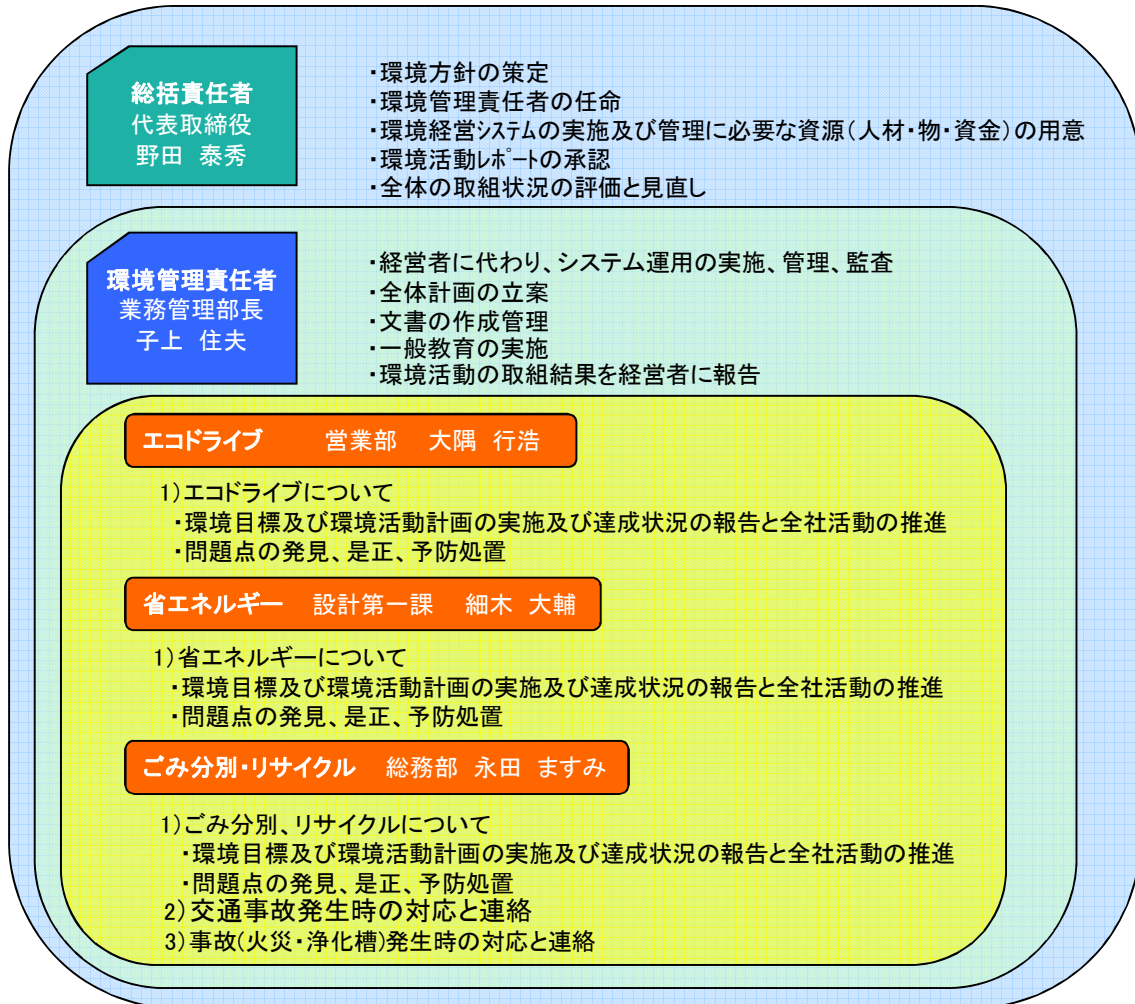
1. 環境関連法規の遵守
事業活動にあたって、環境関連法規を遵守し、心地よい環境、住みよい街づくりをめざします。
2. 資源・エネルギーの効率的活用
事業活動をととして、資源・エネルギーを効率的に利用し、節約及びリサイクルに積極的に取り組み、環境負荷の低減と汚染予防に努めます。
特に、二酸化炭素排出量(電力、燃料等)及び廃棄物排出量の削減と水の使用料削減に重点的に取り組めます。
3. 環境方針の周知と公開
環境教育・周知活動を推進し、全社員の環境意識を図り、環境方針を社内外に公開します。
4. 環境活動システムの運用と改善
本環境方針に沿って、環境目標・環境活動計画を策定、運用、評価、レビューを実施し、環境保全活動の継続的改善に努めます。
5. 環境に配慮した取組
製品サービスについては、環境にやさしい材料の調達・グリーン購入に努め、環境にやさしい設計・測定の提案に努めます。
地域貢献活動に参加し、環境保全に努めます。



平成 24年 8月 6日
新日本設計株式会社
代表取締役 野田泰秀

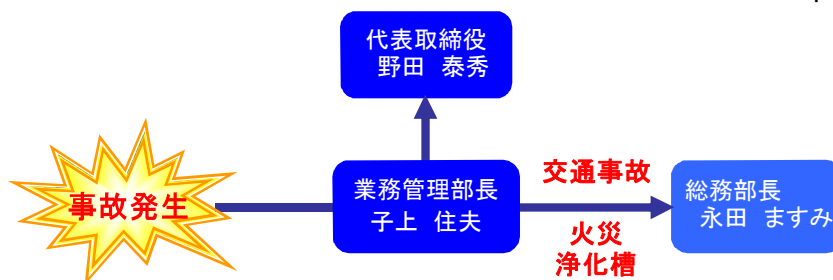
エコアクション組織図及び実施体制

平成29年5月1日



エコアクション 緊急時連絡網

平成29年5月1日



- ※ 業務毎に緊急時の連絡体制は設置している
- ※ 震災発生時は、携帯電話が不通になる可能性もあるため、メールを活用する。
- ※ 電子データのバックアップ体制は、VPNを活用し拠点へシステム構築

環境活動計画

平成29年5月1日

[1] 二酸化炭素排出(電気・燃料)の削減

- ・使用していない箇所の換気扇・電灯スイッチのOff
- ・エアコン設定温度の適正化
- ・窓ガラス清掃により太陽光による社内照度を上げる
- ・クールビズ、ウォームビズの推奨
- ・低排気車両の購入を継続
- ・全車両のエコドライブの周知
- A) 不必要なアイドリングの禁止
- B) 急発進・急加速の禁止
- C) エンジンブレーキの積極使用
- D) エアコンを控えめに
- E) 計画的な運転(ルート・他部署との情報共有)
- F) タイヤの空気圧の定期チェック
- G) 駐停車中のエンジンのOff



[2] 水使用量の削減

- ・水漏れ点検の実施の維持



[3] 廃棄物排出量の削減

- ・再生紙の積極使用
- ・コピー用紙の両面使用
- ・コピー用紙の再使用



[5] グリーン購入の推奨

- ・備品類等の新規購入に於いてグリーン購入を検討



[4] リサイクルの推進

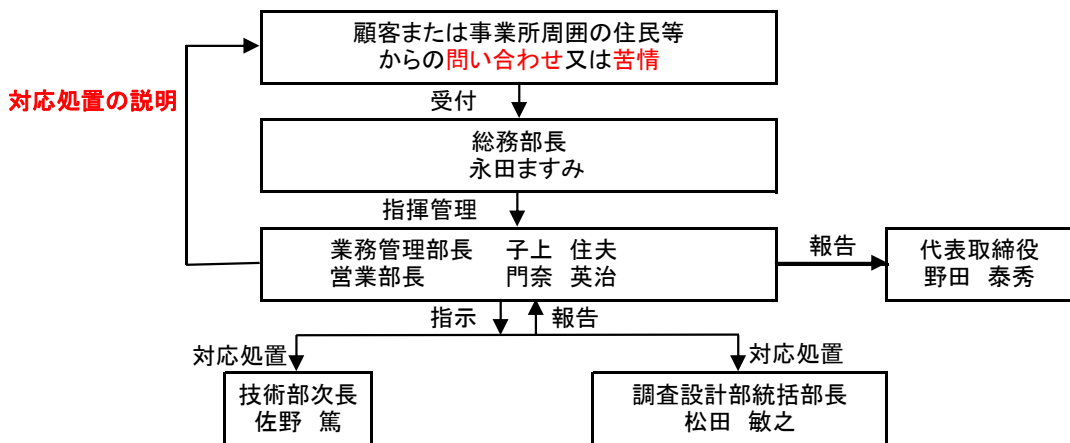
- ・ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル
- ・ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル



環境コミュニケーション

平成29年5月1日

問合せ及び苦情等の受付フロー



環境目標

平成28年5月1日

中期目標(期間:H27年~H29年)

項目	単位	中期目標(H27年~H29年)						
		H27年目標(H26年比)		H28年目標(H26年比)		H29年目標(H26年比)		
二酸化炭素	購入電力	KWh/人	0%	1,282.5	0%	1,282.5	0%	1,282.5
		KWh/m ²		101.4		101.4		101.4
	ガソリン使用量	ℓ/台	0%	1,315.0	0%	1,315.0	0%	1,315.0
	軽油使用量	ℓ/台	0%	681.4	0%	0.0	0%	0.0
	LPG使用量	Kg/人	0%	0.3	0%	0.3	0%	0.3
	CO ₂ 総排出量	Kg-CO ₂ /人	0%	2,297.9	0%	2,297.9	0%	2,297.9
水使用量	m ³ /人	0%	6.7	0%	6.7	0%	6.7	
廃棄物排出量	Kg/人	0%	56.3	0%	56.3	0%	56.3	

業務における環境配慮提案

項目	基礎単位	中期目標(H27年~H29年)					
		H27年目標		H28年目標		H29年目標	
		点数	件数	点数	件数	点数	件数
提案が採用された	3点	9点	3件	9点	3件	9点	3件
比較で具体的な提案を行った	2点	6点	3件	6点	3件	6点	3件
環境配慮の視点を入れた	1点	5点	5件	5点	5件	5点	5件
目標点数		20点		20点		20点	

- ※ 二酸化炭素排出量関連項目、水、廃棄物については、少量につき節減はするが目標数値は0%とする。
- ※ 建設資材・事務用品等のグリーン購入は目標設定が困難なため活動のみとする。
- ※ 業務における環境配慮提案は引き続き目標値を設定した。
- ※ 環境に優しい業務については調査や発注者支援業務での目標設定が困難なため設計業務のみとする。

環境活動の取組実績

実績（期間：H28年5月～H29年4月）

項目		今年度実績（期間：H28年5月～H29年4月）				
		使用量（総量）		単位 <small>（社員数・床面積・社有車数・売上金額）</small>		使用量（単位当たり）
二酸化炭素	購入電力	85,525.0	KWh	64.25	人	1,331.1 KWh/人
		85,525.0	KWh	833	㎡	102.7 KWh/㎡
	ガソリン使用量	39,193.0	ℓ	35.08	台	1,117.2 ℓ/台
	LPG使用量	12.0	Kg	64.25	人	0.2 Kg/人
	CO ₂ 総排出量	133,793.0	Kg-CO ₂	64.25	人	2,082.4 Kg-CO ₂ /人
水使用量		437.0	㎡	64.25	人	6.8 ㎡/人
廃棄物排出量		2,190.0	Kg	64.25	人	34.1 Kg/人
環境配慮提案	項目		基礎単位	H28年実績		
				点数	件数	
	提案が採用された		3 点	12 点	4 件	
	比較で具体的な提案を行った		2 点	2 点	1 件	
	環境配慮の視点を入れた		1 点	0 点	件	
点 数			14	点		

※ 環境配慮提案は平成24年8月6日に目標値を追加設定した。

※ 電気の事業者別二酸化炭素排出係数は0.53(kg-CO₂/kWh)を使用。

目標達成評価

項目		平成26年度実績	平成28年度目標		平成28年度実績		評価
		使用量 a	削減率	使用量 b	削減率	使用量 b	
二酸化炭素	購入電力	1,282.5 KWh/人	0.00%	1,282.5 KWh/人	3.79%	1,331.1 KWh/人	未達成
		101.4 KWh/㎡	0.00%	101.4 KWh/㎡	1.25%	102.7 KWh/㎡	未達成
	ガソリン使用量	1,315.0 ℓ/台	0.00%	1,315.0 ℓ/台	-15.04%	1,117.2 ℓ/台	達成
	LPG使用量	0.3 Kg/人	0.00%	0.3 Kg/人	-37.74%	0.2 Kg/人	達成
	CO ₂ 総排出量	2,297.9 Kg-CO ₂	0.00%	2,297.9 Kg-CO ₂ /人	-9.38%	2,082.4 Kg-CO ₂ /人	達成
水使用量		6.7 ㎡/人	0.00%	6.7 ㎡/人	1.52%	6.8 ㎡/人	未達成
廃棄物排出量		56.3 Kg/人	0.00%	56.3 Kg/人	-39.46%	34.1 Kg/人	達成
環境配慮提案		20 点		20 点		16 点	未達成

以下の地域貢献活動に参加しました

- ・9月富士山(大沢周辺)清掃(富士砂防)
- ・11月「市内一斉クリーン週間」で愛鷹多目的公園周辺の清掃活動(沼津市)

評価と是正処置

項目	評価・原因	是正及び予防処置
購入電力	昨年度の本社屋ワンフロア化・照明器具のLED化により削減はできているが、業務量の増加に伴う残業・休日出勤により長時間の会社滞在から使用量が嵩むと考えられる。	引き続き、節電対策を継続する。
ガソリン使用量	ハイブリッド車の増設による削減、訪問予定情報の共有等の成果が出た。	エコドライブ、訪問予定の情報共有を周知徹底する。
LPG使用量	社屋での電化の推進での効果が出た。	現状維持
水使用量	もともとの使用量が少ないため、現状維持が目標であったが0.1㎡/人の増加。	引き続き、節水意識の向上を図る。
廃棄物排出量	社員のゴミ減量化の意識向上により、印刷前の再確認などが減量達成につながったと思われる。	両面コピー、社内電子掲示板の活用を徹底する。
環境配慮提案	7件の業務で環境に配慮した工法を提案し、うち6件が採用されたが目標達成には至らなかった。	全社員、常に意識をもって提案していくよう指導する。

環境活動計画の取組と評価・次年度計画

平成29年5月1日

目的	区分	項目	担当者	活動項目	平成29年度	次年度計画
					実績・評価／内容	内容
二酸化炭素の削減	購入電力	照明	細木大輔	・使用していない箇所の換気扇・電灯電源のOff	○ 徹底されている	継続導入
				・窓ガラス清掃により太陽光による社内照度を上げる	○ 清掃実施	継続導入
				・人感センサーの導入	○ 現在駐車場のみ	継続導入
				・昼休み時間中の全社消灯	○ 徹底されている	継続導入
		空調	細木大輔	・エアコン設定温度の適正化(夏28℃冬20℃)	○ 徹底されている	継続導入
				・クールビズ、ウォームビズの推奨	○ 徹底されている	継続導入
				・使用していない空調設備の停止	○ 徹底されている	継続導入
	ガソリン	社有車	大隅行浩	・フィルタ定期清掃	○ 清掃実施	継続導入
				・遮光対策(カーテン等)	○ 継続実施	継続導入
				・断熱化対策(スモークガラス等)	○ 継続実施	継続導入
				・低排気車両の購入を検討	○ 新規車両導入時	継続導入
				・全車両のエコドライブの周知	○ 徹底されている	継続導入
				A) 不必要なアイドリングの禁止	○ 徹底されている	継続導入
				B) 急発進・急加速の禁止	○ 徹底されている	継続導入
				C) エンジンブレーキの積極使用	○ 教育訓練実施	継続導入
				D) エアコンを控えめに	○ 徹底されている	継続導入
				E) 計画的な運転(ルート)	○ 徹底されている	継続導入
F) タイヤの空気圧のチェック	○ 徹底されている	継続導入				
G) 駐停車中のエンジンのOff	○ 徹底されている	継続導入				
節水	上水		細木大輔	・水漏れ点検の実施の維持	○ 点検実施	継続導入
廃棄物のリサイクル	事務所	事務用品(紙類)他	永田ますみ	・再生紙の積極使用	○ 徹底されている	継続導入
				・コピー用紙の両面使用・再使用	○ 徹底されている	継続導入
				・ファイルの再使用	○ 徹底されている	継続導入
				・封筒の再利用	○ 徹底されている	継続導入
				・ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	○ 徹底されている	継続導入
				・ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	○ 徹底されている	継続導入
				・名刺の自社制作	○ 徹底されている	継続導入
				・資料のPDF化	○ 徹底されている	継続導入
				・集約化購買	○ 徹底されている	継続導入
				・使用済み切手運動の参加	○ 徹底されている	継続導入
				・廃棄物の分別とリサイクル	○ 徹底されている	継続導入
グリーン購入	事務用品他		永田ますみ	・備品類等の新規購入に於いてグリーン購入	○ 徹底されている	継続導入
				・環境ラベル対応品の購入(GPN掲載商品等)	○ 徹底されている	継続導入
				・何回も使用できる物品の購入	○ 徹底されている	継続導入
地域貢献活動			大隅行浩	・富士山(大沢崩れ)清掃(国土交通省 富士砂防事務所)	○ 参加	継続導入
				・市内一斉清掃(沼津市)	○ 参加	継続導入

※ 判定について

「○」実施でき、有効であった

「△」実施できたが、改善の余地あり

「×」実施できなかった。

環境関連法規

平成29年5月1日

建築物の建築・土地の形状の変更等の際に関連する法律	建築基準法 都市計画法	建築基準に基づいた設計 都市計画法に基づく用地調査	遵守されている 遵守されている	
環境問題への取組	地球温暖化・省エネルギー	エネルギーの使用合理化に関する法律(省エネ法) フロン排出抑制法 地球温暖化対策の推進に関する法律	公共団体への協力 指定検査機関による点検 事業活動に伴う排出抑制等	遵守されている 遵守されている 遵守されている
	大気汚染防止	大気汚染防止法 自動車から排出される窒素酸化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法	ハイブリッド車購入、従業員へのエコ運転の周知徹底による排出ガスの抑制等	遵守されている 遵守されている
	水質汚濁防止	水質汚濁防止法 水道法 下水道法 河川法 浄化槽法	事業活動全般 水道法に基づいた設計 下水道法に基づいた設計 水文観測による河川の水位等の確認 指定検査機関による水質検査	遵守されている 遵守されている 遵守されている 遵守されている 遵守されている
	騒音規制	騒音規制法 道路法	騒音規制法に基づく道路及構造物設計 道路法に基づく道路設計	遵守されている 遵守されている
	振動規制	振動規制法	振動による家屋等への影響の調査	遵守されている
	一般廃棄物処理	沼津市一般廃棄物に関する条例	事業活動全般	遵守されている
	リサイクルの推進	資源の有効な利用の促進に関する法律 建設リサイクル法	再生資源使用の測量業務 リサイクル法に基づく建物の算定	遵守されている 遵守されている
	自然環境・緑地保全	自然環境保全法 都市緑地法 土壤汚染対策法	自然環境保全法に基づく調査・設計 都市緑地法に基づく設計 事業活動全般	遵守されている 遵守されている 遵守されている
環境への取組に関する基本的枠組み	環境基本法 循環型社会形成推進基本法 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	事業活動全般 事業活動全般 事業活動全般	遵守されている 遵守されている 遵守されている	
業務履行に当たっての法令	測量法 道路交通法	測量業の登録 事業活動全般	遵守されている 遵守されている	

全社員に、当社のコンプライアンスポリシーを配布し月1回のコンプライアンス委員会の開催で、法令遵守が確認できている。又測量業、建設コンサルタント・補償コンサルタントについての登録は更新済み。
浄化槽の水質検査は平成28年12月に指定検査機関により実施した。

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

H26年5月1日～H29年4月30日

平成29年5月1日

当社の事業活動による遵守すべき環境関連法規等に対する違反及び訴訟は過去3年間

ありませんでした。

なお、廃棄物については契約業者により収集運搬から処理処分まで適性に管理されています。

代表者による評価と見直し

平成28年度は、中期目標（平成27年度～29年度）の中期にあたる。

地球温暖化に起因すると考えられる海水温の上昇傾向が止まらない。この影響で異常豪雨や台風などによる自然災害が引続き発生し、特に対策への準備が考慮されていないか、できない地域で甚大な被害を発生させた。北海道では農作物が被害を受け、いまだにその影響は首都圏の台所にも影響を与えている。熊本では、震災後の緩んだ斜面の崩壊による被害を重ねた。

こうした中で、当社では環境負荷の削減を図るため、可能な範囲で、様々な取組みを創意工夫して行なってきた。今年度のCo2総合排出量は目標を達成できた。

個別の目標においては、ガソリン、LPGの項目で目標を達成することができたが、電気や環境配慮業務提案では目標を達成できなかった。

電力については、業務量に伴う休日・夜間における空調設備の利用増加によるものと思われる。ガソリン、軽油については業務割合の変化により使用車両が少なくなった他、昨年に引き続きハイブリット車の導入など積極的な対応を進めることにより化石燃料全体で削減できた。環境配慮業務提案では、業務提案できる業務が少なく目標値を達成できなかった。反面、土砂災害に関わる基礎調査や公共構造物の長寿命化に関する業務に積極的に携わることができたことは一定の成果と思われる。

また、業務量が大幅に拡張されていく中、事業部の休日出勤日数も増えており、二酸化炭素の削減目標値の更なる更新には限界があるが、今後の取り組みについては、当社の本来業務である設計業務において自然環境に配慮した河川・道路の設計や、公共構造物の長寿命化（アセットマネジメント）の設計に積極的に参加し、環境に配慮した計画・設計を行うことが重要であり、引き続き意識的な提案活動を行っていきたい。

また、定期的な教育訓練において、環境方針を周知し、更なる環境活動の意識向上を推進する。

平成29年5月1日
新日本設計株式会社
代表取締役 野田泰秀